

文が泣く

森野 水琴

やらずの雨が止んだ。

男が帰宅してみると、郵便受けに手紙が一通。

切手が貼ってないところを見ると、家まで来て届けてくれたものらしい。

住所も書かず、男への宛名だけ書いてある。差出人の名前も書いてない。

だが筆跡に見覚えがある。

一週間前に訪ねていき、別れ話をしたところ、雨が降り続き、二泊もの雨宿りに根負けして、別れ話を撤回したという、因縁の女の筆跡である。

別れ話を撤回しておきながら、会社での縁談のため身辺整理している男は、別の女の所で別れ話をし、また雨宿りしたのであった。

開封しながら、さぞかし女は怒っただろうなと思った。

雨に濡れないようにと油紙に包まれている。

女からの最初で最後の手紙。次のように書かれていた。

お逢いできて楽しかったです

ありがとうございます

お元気で